法人化した国立医療学会のめざすもの

国立病院機構本部　伊藤　澄信

国立医療学会も無事，有限責任中間法人となり法人化を果たした．また，第62回国立病院総合医学会は松本純夫国立病院東京医療センター院長を会長とし，本誌の編集委員でもある四元秀毅国立病院機構東京病院院長を副会長として国立病院機構と共同主催することになった．国立病院機構と共同主催するのは公務員型独立行政法人である国立病院機構の職員が勤務時間内でも総合医学会の打ち合わせ等ができるようにとの配慮からである．国立医療学会が「医療」という月刊ピアレビュー雑誌と学術集会を主催し，法人格を備えた独立した学会となったことはご同慶の至りである．

独立行政法人国立病院機構法に書き込まれた業務範囲は①医療の提供，②調査および研究，③技術者の研修となっている．法律で研究を行う組織と規定されている点が他の医療グループとの大きな違いである．治験をはじめとする臨床研究は本務でありおまけではない．「医療」に発表されている様々な業績はナショナルセンターや国立病院機構病院の研究成果の賜物であり，広く情報発信をしていく必要がある．

インターネット時代にあって，紙媒体の役割は次第に小さくなっているようにみえる．しかし，Wikipediaやブログなどに記載された内容は正確なものとは言い難い．医療に記載された原著や総説は2名の編集委員が査読し，さらに印刷前には編集委員会で確認したものである．手間暇をかけて作り上げた雑誌の内容を多くの方々に読んでいただきたい．そのためには，インターネットで雑誌内容を公開し，医中誌など医学専門雑誌の検索サイトだけでなくgoogleやyahooなどでも全文検索できるようにすればよい．しかし，会員サービスとして情報提供の差別化も考慮しないと会員として会費を払うメリットがなくなってしまう．会員数の減少は学会としては致命傷になりかねない．

医療の編集委員として医師だけでなく看護師，薬剤師，臨床検査技師など国立医療機関で働くほとんどの医療職の方々に参画していただいている．すべての医療職にとって魅力ある紙面づくりをするとともに一人でも多くの会員を増やし，国立医療機関の診療の質を高めていきたいからである．特定の職種を対象とした学術雑誌は数多い．しかし，「医療」のような職種横断的な学術雑誌は少ない．国立医療機関で働く私たちの学問的バックボーンは「医療」ですと誇れる雑誌に育てていければと願っている．

「医療」特集号のご案内

最近の特集号のバックナンバーは以下のとおりです。
各１部850円で購入いただけます。ぜひ、ご購入のうえ医療現場でお役立て下さい。

「神経疾患と転倒・転落」	第60巻	第１号
「政策医療（国）が目指すリハビリテーションの現状と将来」	第60巻	第３号
「頭頸部外科手術と喉頭機能外科の進歩」	第60巻	第４号
「喉頭摘出術」	第60巻	第６号
「正常圧水頭症　その１」	第60巻	第７号
「正常圧水頭症　その２」	第60巻	第８号
「今後の筋萎縮性側索硬化症医療のあり方を考える」	第60巻	第10号
「長寿医療の最前線」	第60巻	第12号
「神経疾患の摂食・嚥下・栄養を考える」	第61巻	第２号
「スタートした障害者自立支援法」	第61巻	第３号

お問い合せ先：　国立医療学会事務局（TEL／FAX：03-3410-8881）